

平成 29 年度 第 3 回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：平成 29 年 11 月 20 日（月）午後 1 時 00 分～午後 2 時 00 分 現地視察
午後 2 時 15 分～午後 5 時 00 分 会議

開催場所：岡崎市役所東庁舎 2 階 大会議室

出席委員：6 名

瀬口哲夫委員（委員長）・加藤安信委員（副委員長）・奥田敏春委員・
堀江登志実委員・丸山宏委員・三浦正幸委員

欠席委員：1 名

中井均委員

説明のために出席した事務局職員：13 名

社会教育課：小野鋼二課長・荻野泰久副課長・柴田英代文化財係長・
小幡早苗主任主査・山口遥介主査・中根綾香主事

まちづくりデザイン課：浅井恒之副課長・木下政樹歴史まちづくり係長・
山本礼美主査

公園緑地課：横山晴男課長・河合寿八主任主査・山口愛理主事

乙川リバーフロント推進課：中田真也技術係長

傍聴者：なし

次第

1 議題

（1）社会教育課事業

- ア 月見櫓発掘調査結果報告
- イ 菅生曲輪枡形発掘調査途中経過報告
- ウ 総構え発掘調査(中央緑道)結果報告
- エ 石垣保存修理基本計画策定事業について
- オ 菅生川端石垣整備事業について

（2）まちづくりデザイン課事業

総構え位置表示整備基本計画の方向性について

（3）公園緑地課事業

- ア 岡崎公園石碑等再配置検討業務の基本方針について
- イ 岡崎公園内のさくらの管理・植樹について

（4）その他

籠田公園の整備事業について

議事内容

1 議事

(1) 社会教育課事業

ア 月見櫓発掘調査結果報告

イ 菅生曲輪枳形発掘調査途中経過報告

ウ 総構え発掘調査(中央緑道)結果報告

事務局：配布資料 1-1、1-2、1-3、1-3-2 に基づき説明

【質疑応答】

ア 月見櫓発掘調査結果報告について

委員：月見櫓本体と、平櫓の一番東側で、櫓台の石垣そのものが年代的に違うが、調査区域の西側と調査区 4 の南側の天端の石の形状や状態はどうであったか。

事務局：月見櫓と脇多門櫓がのる少し出っ張った石垣がある。これを見ると東側は古いが、月見櫓の真下の石垣はどう見ても江戸の初期ではない。おそらく、江戸の後期に積まれた石垣。その石垣の上に月見櫓が乗っていたことが想定されるため、石垣修築のときに月見櫓も建てられているのではないかと思う。したがって、古写真に写っている月見櫓は江戸後期頃に建てられたものかと思う。

重箱櫓というのは江戸の初期からある形式なのか、お聞きしたい。

委員：分かっている限りでは、関ヶ原合戦の直後の慶長 6 年頃。

委員：建て替えの形跡はあるのか。

事務局：明和 7 年の書上文書に書かれている月見櫓の梁行、桁行の寸法よりも、基礎となる石積みの寸法は大きいということも分かった。書上文書の記載とも少し齟齬があり、増築、改築があったともとれる。いずれにしても、書上文書とは寸法が合わなかった。

委員：月見櫓の規模として、桁行 3 間 1 尺(約 5.7m)と書いている。1 間は 6 尺で計算しているようだが、明和 7 年の書上文書は 6 尺を 1 間としているのか。1 間を 6 尺とすれば確かに 5.7m だけれども、1 間を 6 尺 5 寸とすると、45cm 大きくなる。この文書では 1 間を 6 尺か 6 尺 5 寸で書いているのかそれを先に判断しないとイケない。6 尺 5 寸であれば、調査で確認された規模と同じだったかもしれない。色々な文書で言えるが 6 尺を超える端数がついていれば、6 尺 5 寸という事になる。

委員：ただ、櫓台が東西で石の積み方がかなり違うが。

委員：明らかに江戸の中期以降に積み直している。櫓を修築する場合は、下の石垣を直して櫓自体も建て直すという場合と、傷んでいる材だけを取り替える場合とがある。また、櫓は石垣のギリギリまで建っているわけではなく、大体 5 寸(15cm)くらいは余裕もって建てるため、石垣の外側で

図ると前後で合計 30cm ほど櫓より大きくなる。それらを踏まえると、文書の通りだったのかもしれない。

事務局：東西はそれで 50cm くらいの差は埋まってしまうかもしれないが、南北は 2.7m ほど差がある。

委員：規模が違っていた可能性がある。写真に写る垂木を分析して、間数を検討したい。

ウ 総構え発掘調査(中央緑道)結果報告について

委員：資料 1-3-2 の、石垣は小さい石でどのくらいの大きさか。

事務局：一番根に近いところで 50cm 程度。上部はもう少し小振りな石であった。

委員：段々と小振りになってくるのか。

事務局：上面のほうは小振りになる。拡張部の方で出ている近代と思われる石垣の横の辺りでは、30、40cm 程度のものもある。

委員：胴木の上に乗っている石垣は近世のものと考えて良いのか。上部は近代という可能性は。

事務局：はっきりと年代は分からないが、根石から 2 段目の石材で、矢穴の採寸が 5 cm 程度と非常に小さいサイズのもが使われており、ここから近代となる可能性もあると思われる。また、攪乱を受けた可能性もあるが、石垣の裏込め石が見られず、近世の構築とは様相が違った形で出ている。近代のものと思われる攪乱を受けており、白い層が見られるが、マグロか何かの魚骨を大量に投棄したもので、昭和 30 年代に豊川信用金庫跡地に、魚市場がありその頃のものが投棄されているのではないかと考えられる。かなり上から掘り込みを受けているので、石垣がもとあった高さより低い状態で検出されている。

委員：場所的な話だが、河岸としてのものは何も検出されていないのか。船の荷揚げ場であったりとか。ここは絵図に書かれている土場とは違う場所になる。

事務局：今回出ているところは、川の岸のところなので、絵図で言うと畑まで下りてくるようなところが出ていると思う。

委員：戦災の焼土はどこで処分していたのか。

事務局：籠田公園の調査でも、堀に埋めたりしている。

エ 石垣保存修理基本計画策定事業について

事務局：配布資料 1-4 に基づき説明

【質疑応答】

委員：石垣は水面の下とか地面の下は除外しているのか。

事務局：基本的に地上に出ている石垣が対象。これまでの発掘調査で石垣が検出しているも、埋め戻したものは対象外。現状で、石垣が1石でも露出していれば対象としている。

委員：岡崎城の石垣の特徴というのは、鏡石やいろいろな石があるということではなく、長期にわたる石垣の変遷があるというのが特徴なのではないかと思う。もう1点、石材について触れられていない。岡崎のものであるとは思いますが、地域の石材を使っているというのも大きな特徴なのではないかと思う。名古屋城ではあちこちから持ってきている。

事務局：構築技術の側面で天正末期から石垣の色々な形態が見られる。相対的な時代変遷という形で、江戸期を通じての構築や修築などを載せたいと思っている。石材についても、基本的には岡崎の花崗岩であるが、使用石材についても触れていく。

委員：石材は、市内と書いているが藩内ではないのか。

武節は豊田市の地名だが、武節花崗岩は岡崎市内なのか。

事務局：武節という名前がついているが、分布の中心は岡崎となる。

委員：石工のことは書かれていないが。

事務局：石工のことは資料的には分からない。

委員：石工の名前が出てくるのは元禄くらいの鳥居や灯籠の中に若干名前が出てくるくらい。青山、石原、大久保、峰とかが出てくるが、それがどの辺りの発祥なのかはわからない。石垣を築いた人間が、時代とともに平和になって石垣の需要が無くなって鳥居や灯籠などに転化していくというのは考えられる。いずれにしても石工として名前が出てくるのはもっと後の時代。穴太衆という技術を持った石工が近江の方おり、田中吉政が豊臣秀次の配下にいるときに秀次が穴太衆を使っているというのが「駒井日記」でも出てくる。岡崎の石工のルーツは摂津とか和泉から田中と一緒に来たということもあるので、その辺りが石工の系譜に繋がってくると思うが、はっきりとは分からない。水野時代の記録に下級武士の足軽の中に肥後組という加藤清正の石垣技術を系譜としている集団が城下に屋敷をもらって、石垣を築いたのではないかという丕揚録という記録が水野時代にあるが、それが岡崎の石工として定着していたのかは分からない。

委員：石垣の崩れる原因となる、孕み出しの原因は大きく2つあり、ひとつは樹木であり、経年変化による裏込め石の沈下が1番の原因となる。清海堀、帯曲輪の石垣の二股の松の孕み出しは松の根によるもので樹木の影響。そこを正面に見て右側の孕み出しが典型的であるが、下部が出っ張り上部が後ろに倒れかかっている。これが裏込め石の崩壊によるもの。全国の石垣の中で、裏込め石の沈下による孕み出しというのは大体半分

以上を占め、岡崎城でもかなりあるのではないかと思う。その1番大事な理由が書いていない。裏込め石は丁寧に作る時は一個ずつ丁寧に積み上げるために川原石を使う。慶長年間の文書に川原石を使うようにと書いてある。大体20~30cmくらいの大きさで、ぎっしり入っていて後ろから石を支えているが、石垣の石というのは毎年夏に熱膨張し、冬に縮む。それを盛岡城で、20年間でどの程度動くのかというのを計測した内田先生の記録を見ると、夏は5mm外に出て、冬になるとそれが元に戻る。5mmずれるごとに裏込め石が少しだけ下に落ち込む。震度5の地震でも1回に5mmずれる。裏込め石がずれたときに、隙間に上部の石が入り込むと、そのずれは戻れなくなり、それが繰り返されることで段々下に裏込め石が沈んでしまい、下が孕み、上が倒れるという状態になる。二股松の右側の石垣はまさに典型的な裏込め石の沈下による孕み出し。直すには積み直ししかない。

委員：孕み出し係数とは。報告書などでも見るが。

委員：どのくらいは孕み出しているかを数値で表すが、石垣の石の控えの長さ、裏込め石がどのくらい丁寧に入るかで話が全然違うため、数字だけでは判断はできない。地震等による沈下によって孕むというケースが1番多い。帯曲輪の石垣は典型的。また、「石垣の崩落の危険性が高い場合」と記載してあるが、学術的或いは論理的な書き方ではない。どういう条件のときに壊れるのかというのが書いていない。震度5以上の地震があったときに崩壊の可能性が高いのか、放っておいても崩壊の危険性が高いのかとでは大きな違い。例えば、二股の松のところの石垣は、地震が来なくても自然崩壊する可能性がある。しかし他の箇所は、地震や大雨などの災害に見舞われれば崩壊の危険はあるが、災害が無い限りは大丈夫だと思われる。担当者の感性に基づいた判断となり、人によって判断が違ってくる。

事務局：現状の目視調査に基づく危険性の判断となる。変動があるかなど、詳細調査は今後行う。

委員：孕み出しがひどい石垣でも動いていない場合もある。たいした孕みでなくても動いている石垣もある。また、動いてなくてもある日突然崩れたという事もある。石垣がどういう状態かを記載するとよい。

事務局：石垣の危険性ではなく、健全性がどうかという視点で述べた方が良いという事か。

委員：どのような時に危険かを書けば、そのときまでは現状維持で良いということになる。

委員：基本計画には、程度または変形が進んでいるとか、健全であるなどの表現がよい。

委員：かなり変形が進んでいるとか、健全であるなどの表現の方が良いかもしれない。

事務局：検討する。

委員：将来的に崩壊が危惧されないとの記載があるが、断定はできないのではないか。

委員：マグニチュード8の直下地震があれば、大抵の石垣が崩壊する。

委員：3章の石垣の調査は、ここは処置が必要だとか木を切った方が良いとか、かなり具体的な内容になっている。第4章は岡崎城における石垣の特徴などで、本質的価値などの国史跡に持っていくために必要な要素が記載されている。段々と具体的な内容の事業に進めるのならば、3章と4章を入れ替えて、2章で地域的・歴史的環境、次に石垣の特徴を述べて、石垣の調査での傷んでいる箇所等の具体的な内容を挙げて、それをどう考えていくか、という流れで結び付けた方が良いと思う。

オ 菅生川端石垣整備事業について

事務局：配布資料1-5に基づき説明

【質疑応答】

委員：乙川リバーフロント地区計画とのすり合わせが必要だと思うが、進捗は。

事務局：菅生川端石垣がある河川敷については、昨年度整備が終わっている。ただ、下流の見せたい石垣の前にあるひょうたん池の整備と石垣の整備をうまく調整していきたい。

委員：ひょうたん池は菅生川が回り込んでいた大事な痕跡。籠崎堤が出来る前は、石垣前まで川が来ていたが、川を切って最終的に今の状態となった。岡崎城の経緯を語る上でも大事な痕跡なので埋めないで整備という方針は良いと思う。

委員：ひょうたん池の断面図に5.4mの石垣が書かれているが、それは確認できているのか。

事務局：ここでは、試掘で最下段の5.4mまでは確認していない。整備で土を取る事になれば、試掘で確認しなくてはいけない。現状で天端が見えていないということは天端が撥ねられている可能性が高い。地中レーダーの探査も行い、経過を見ながら整備方法を考えていく。

委員：岡崎城の石垣の特徴の項目で菅生川端石垣についてもきちんと書くこと。

(2) まちづくりデザイン課事業

ア 総構え位置表示整備基本計画の方向性について

関係課：配布資料 2-1 に基づき説明

【質疑応答】

委員：遺構の展示手法として、ガラス張りの露出展示は、カビ対策などメンテナンスの負担が大きい。室内はともかく屋外は無理。空中線も非現実的。

委員：横浜赤レンガ倉庫 1 号館や東京駅のように、屋内展示として整備する方法もある。

関係課：豊川信用金庫跡地で遺構が発掘できれば、施設を整備し、屋内での展示が可能ではないかと考えている。

委員：ステンレスの演出サインは、設置場所によっては危険を伴う。

関係課：壁面への設置など、安全面等も含めて今後検討する。

委員：市内の一部の通りを整備エリアとして指定し、統一感のある景観に整備するなど、歩いて楽しむ工夫ができるとよい。

委員：景観条例の制定は見据えているか。

関係課：籠田公園からリブラを結ぶ通りの景観について、ルールづくりをしたいと考えている。全体の規制は中長期的な努力が必要。

委員：基本コンセプトにある「元江戸」というフレーズを、江戸に続くようなイメージの言葉に変更できないか。

関係課：「天下人ブランド」というフレーズも用いたが、現状は未整理。

委員：表示すべき史跡等が多いため、サインは情報量を抑えたシンプルなものが良い。絵図などを生かして市街地の位置を示し、岡崎城との位置関係を認識できるとよいのではないか。

委員：立面の提案が多いが、路面舗装やマンホール等、地表面への表示も検討が必要。

委員：東西の康生通りや、旧東海道である国道 1 号など、二十七曲り以外の通りにも、ストーリーをもたせることが必要ではないか。

委員：二十七曲りについては、総構えのなかに東海道を引き入れた意味も念頭に置く必要がある。

委員：コアとなる岡崎公園内のサイン表示手法の検討と、二十七曲り以外の通りのサイン表示のネットワークについて検討をお願いしたい。

(3) 公園緑地課事業

ア 岡崎公園石碑等再配置検討業務の基本方針について

イ 岡崎公園内のさくらの管理・植樹について

関係課：配布資料 3-1、3-2 に基づき説明

【質疑応答】

< 岡崎公園石碑等再配置検討業務について >

委員：調査対象施設は、便益施設などを除くのではなく、エリア毎にトイレやベンチなども含め全ての施設を書き出し、エリア毎の考え方を示し、本質的価値にそぐわないものをチェックするのが先ではないか。

関係課：一度は全ての施設をリストにのせ、チェックし、再配置候補となる施設を判断している。

委員：判断基準を知りたいので、リストを提示して欲しい。
飲食店はどのように考えるのか。

関係課：岡崎城跡整備基本計画で、親族（2親等）限りで、更新は行わないとの方針を示している。

委員：当初は全てをリストに挙げていたが、数が多く見にくいため、整備基本計画で方針を示しているものは削除した方がよいと意見した。

<岡崎公園周辺さくら保全・利活用計画策定業務及びさくら保全管理計画策定業務について>

委員：岡崎公園の植栽管理計画が策定されていないため、この計画の位置付けがわからない。早急に植栽管理計画を策定し、桜の維持は植栽管理計画に基づき、今後事業を進めることを全面的に書くべきである。
桜の品種についても、ヤマザクラなのかソメイヨシノなのか書いてない。

関係課：植栽管理計画は策定する予定である。今回の計画だが、岡崎城跡整備基本計画の中で、桜の名所として維持管理しており、このことにも合致するものである。

委員：植栽管理計画で全体をデザインし、どのような空間を造るかを決めていく。桜の花は一時、モミジやイチョウ、常緑樹はどう考えるのかを検討していない。桜の樹種はどうするのか。

関係課：人が多く来る、桜まつりの時期に合わせ、ソメイヨシノと同時期に開花するものと考えている。

委員：ソメイヨシノを否定しないが、他の樹種を植えれば花期が延びる。そういうことも考えて樹種を選択しているのか。いろいろな桜があってもいいのではないか。

委員：本丸辺りの遺構がはっきりしている場所は、基本的には、江戸時代の形を捉えていきたい想いがある。江戸時代、この辺りに桜が植えられていたという記録はほとんどない。岡崎城跡は公園でもあり、近代以降の歴史も積み重なっている。整備基本計画では、維持管理という言葉はあるが、新植についてはふれていない。植栽管理計画をしっかりとやらなければいけない。

委員：名古屋城の二の丸庭園にも桜が植えられているが、山桜である。江戸期の景観にというならば、山桜を植えるという発想があってもいいのではないか。1本1本、現状変更も必要になる。

委員：岡崎公園はさくら名所100選でもあり、桜をもっと植えてはとの声が高まるかもしれない。この計画は、その歯止めとも言えないか。本丸や持仏堂曲輪等の重要な部分には新植していない。今あるものは現状のままだが、石垣に影響を与えているものは除伐となっている。

(4) 籠田公園の整備事業について

事務局：配布資料4-1に基づき説明

【質疑応答】

委員：常夜燈の位置移設については絵図でも確認でき、城下の一景観が増えることには意義がある。

委員：総堀がわかるような公園デザインにすべきと思うが。

事務局：総堀の位置が未確定なので、来年度、道路部分も含め再度発掘調査を行う。

委員：厳密でないと展示しないという発想か。この辺りにあったことがわかっているのであれば、展示することにより総構えということを示す効果が絶対に大きい。

事務局：来年度、発掘を行った上で、その成果をもとに表示方法を検討したい。

委員：旧東海道を表面表示しているが、記録では3間あまりの幅となっているのに、3mと小さくするのはどうか。東海道は幅が重要であり、東ステージのあるところは縮めて、3間あまりの約6mのままで表示してはどうか。

関係課：自転車の通行が多く現在は迂回しているが、道幅が広がることにより、自転車が通行するようになる。地元からの要望で3mとしている。